

令和6年度 第2回学校運営協議会 議事録（案）

第2回：令和6年度 学校運営協議会（発信者ごとの要点議事録）
日 時：令和6年 7月22日（月曜日） 10：00～11：20
場 所：西東京市立田無第二中学校 会議室
出席者：折田 和文（会長）、真鍋 五十鈴委員（副会長）、山崎 英昭委員、 一之瀬 裕幸委員、本間 孝子委員、奥村 咲子委員、吾妻 隆一委員、 矢野 尊久委員、南川 広幸委員 欠席者：勇 昇一委員 9名の出席により、本会議は成立
次第1 司会：副校長 ・校長挨拶 校長： 皆様、この暑い中、本校の学校運営協議会にご出席をいただきましてありがとうございます。また、本日は会議の前には地域清掃にもご協力をいただきまして誠にありがとうございました。 さて、本日は学校評価計画表の詳しい内容説明が大きい議題だと思います。そして、一学期も終わりましたので一学期の様子などもお話した上で、後半に向けて「何ができるか」など、みなさまのご意見を頂戴できればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。 次第2 議題 （1）第一回協議会 議事内容確認 会長： 前回の議事録の内容確認ですが、とりあえず山崎委員と吾妻委員のお名前の漢字修正をお願いしてください。それでは、皆様に少しお時間を差し上げますので議事録のご確認をお願いいたします。 委員： 2ページ8行目の本町は本庁の間違いだと思いますので、修正をお願いします。 委員： 同じページの委員4の自己紹介ですが、小学校育成会会長とありますが正式には小学校青少年育成会会長ですので、こちらも修正をお願いいたします。 会長： ご指摘の部分の修正をお願いいたします。ホームページに掲載する都合上、その他、お気づきの箇所がありましたら明日までに学校にご連絡を頂きたいと思います。 それでは、第1回学校運営協議会議事録を承認したいと思います。 （2）学校評価計画表説明 校長： 学校評価計画表の説明をさせていただきますのでA3の資料②をご覧ください。 第一回学校運営協議会で内容設定を各先生および分掌の担当で決めるというお話をしました。一学期早々には決まりましたが、皆様にご連絡する機会がなく本日の説明となりました。今後、前期の評価と最終的には年間でご評価をいただくこととなります。それでは、簡単に説明を始めさせていただきます。 資料の一番上から順番に説明させていただきます。分かりやすいように、項目ごとにパーセンテージと内容を表示しました。 <u>健康・誠実</u> 中期経営目標：質の高い教育 ・学力向上 まず中学生にとって一番大事なのは『勉強面』です。学力向上というところで『子どもたちがどこまで勉強で頑張れるか』ということで選びました。これは昨年と同様で私の方から『とにかく学力を向上させてください』と先生方をお願いしております。保護者からもしっかりと見える『良くわかる授業の指導工夫』が努力目標。その結果としての成果目標は保護者アンケートで『基本的な知識や技術が身についている』で評価してこれは年度末にも評価します。これは生徒の自己評価ではなく、保護者アンケートによる保護者から見た評価が基本的となっています。

・生徒が主体となる指導の充実

これは、『一方的に教師が黒板に書いて教えて、テストでできたか』というのではなく、『生徒が授業の中でしっかりと頭を働かせてどれだけ活動しているか』を目標としている主体的な授業をつくるということです。教員アンケートで『グループ学習等で生徒同士が授業で伝え合う活動をしっかりやりましょう』。最終的には『子どもが授業に主体的に取り組んでいるか』ということで、『ただ聞いているだけの授業ではなく子どもたちが自らどれだけ授業にどれだけ積極的に取り組んだか』という生徒アンケートになります。

・指導と評価の一体化

指導だけで行うのではなく、当然その結果についても検証しなければならないので、努力目標としての教員アンケートでは『生徒の評価結果を元に、指導を見直し授業内容の改善を行っている』ということで、生徒の授業評価をとり、それを教員に渡し、教員が見直しを行っているか』というのが努力目標です。結果として生徒のアンケートで『先生は授業を改善して良くなっているか』というのが成果目標になります。

・問題解決学習や探究学習の充実

「社会で必要とされているのは、物事をいかに工夫して考えてつくり上げていくか」という能力で、ただ基礎的な知識、技能だけではなく、例えば歴史の年代だけを覚えているとかではなく、どうやってその問題を解いていくのかとか、どういう方法が一番適しているのか、このように調べると良い結果が見えてくるとか、更にその結果をどうしていくのかなどを追及していくのが『探究の学習』です。問題解決学習が非常に大事にされています。努力目標については、『様々な方法を考えてより良いものを選択して取り組む』ということで、評価方法の思考・判断・表現という評価方法のひとつで第二観点としています。第一観点は知識と技能で基礎的な知識、第二観点は思考力・判断力・表現力が大事なのではないかとということで教員アンケートを取ります。思考力・判断力・表現力は評価項目として大事な項目です。結果としての成果目標は生徒アンケートで『課題に取り組むときに、深く考えずに取り組むのではなく、様々な方法からより良いものを選択し取り組むようにしているか』子どもたちが取り組むときに、『選択できるような、あるいは様々な方向から検討しているか』ということです。授業にもよりますが、今はいろいろな解き方があると思います。友人、先生、ネット検索、過去問題集、教科書で調べるとか様々な方法があり、『自分に適した方法を選んで取り組んでいるか』という話になると思います。教科の単元や内容になるので、すべての授業中にできるわけではないですが、総合的な学習の時間、西東京市で行っている「ふるさと探求学習」では学習の時には必ずこのような活動をしています。そのことも含めて子どもたちに聞いてみたいと思っています。

敬愛 中期経営目標：自分も他者も大切に作る

・心と体の健康 不登校削減

前回にもお話ししたように、当校は不登校加配校として東京都から余分に教員一人を配置していただいております、不登校削減に取り組んでいます。2月17日には東京都から市内で還元をするために発表を行います。『不登校の生徒が出ないように』、また『不登校になった生徒にどのような機関と連携するのか』、あるいは『どうやって学習を保証するのか』などについて発表いたします。教員アンケートでは『不登校の未然防止、早期発見、長期的な対応を行うことができたか』についてアンケートを取っています。最終的には成果目標で不登校加配校として東京都から『不登校出現率6.1%以下に抑えるように』とされています。最終的に2月発表時にこの出現率を上回らないようにしていきたいと思っています。数値目標で示す方が分かりやすいこともあり、指針としてこのようなパーセンテージ

ジを用いていますが、これがもちろん全てではありません。子ども一人ひとりに寄り添ってどうやって不登校を支援していくのかということの方が当然大事ではありますが、東京都の指示のもと、数値で表示しています。

・人権尊重 いじめの未然防止、虐待の早期発見

いじめについては必ずどこの学校においても、この項目を入れるように言われています。

努力目標では、『生徒の話を丁寧に聞き、受け止めている』という事で、事前に子どもたちの話を聞き、困り感や悩みについて事前に相談に乗っていくというのが一つの努力ということになります。その結果として『先生は親身に応じてくれている』なおかつ、いじめの発生率を0件にするという事ですが、どうしても学校では人が集まっているので昨年も含めて市に報告した「いじめ件数」は0件とはいかないのも現状です。当事者が「いじめ」と言えば「いじめ」となってしまうのが今の世の中ですので、どうしても件数が出てしまうのは仕方がないのかもしれませんが、それに対して我々がきちんと対応できたかという事を含めてしっかりとやっていきたいと思えます。とにかく『未然防止を含めて0件を目指す』ことを生活指導部担当が決めてくれましたので、今年もこの目標でやっていきたいと思えます。

地域連携

・ふるさと探究学習の充実と学校運営協議会との連携

(地域学校協働活動における工夫と連携)

学運協のご協力を得て、『ふるさと探究学習を計画的に実行し、地域と連携して、西東京市の理解を深める活動ができた』の教員アンケートの努力目標は1年2年3年と共に『活動することができた』とありました。また、成果目標の生徒アンケートでは『ふるさと探究学習を通して、西東京市の理解を深めることができた』とありました。既に2年目となり、昨年のノウハウを活かしてやっているところですよ。

業務改善

・働き方改革の実施（経営支援部による業務改善）

この項目も学習計画に入れることを義務づけられています。基本的には昨年度と同じになりました。教員の意識調査では『業務の効率化に向けたアイデアを共有し、教員の方で作業時間が短縮した』となります。『教員の机上整理ができた』ということで、個人差はありますが業務が効率化できたことで机上整理をする時間的な余裕ができたのではないかと推察します。業務の効率化を進めている取組としてご理解いただければと思います。

以上が今年度の計画となります。すべてを網羅することは不可能ですので、ひとつの指標としてご理解いただければと思います。説明は以上となります。

会長： 資料上段にある「目指す生徒像」の中に“ウェルビーイング”とあるがもう少し説明を頂きたいと思えます。

校長： “ウェルビーイング”という言葉は昨年頃からよく言われてきています。文科省では「より良く生きる」という意味で使われていて、『心と体、人間関係も含めての社会性、その3つが共にその人にとって満足いくような状況をつくり出していきましょう』と言っています。どれが欠けてもその人にとって「より良く生きる」ことではなくなるという意味で、そう言ったことを含めて「子どもたちを育てていく学校生活、社会に出ても幸せになれる生き方」というのがウェルビーイングの考え方です。

委員： 不登校削減のところで加配校として一人配置されているとのことですが、学校に一人という事ですか。加配された人は不登校専門の職員なのですか。

校長： 学校に一人加配されています。東京都では何十年も前から不登校削減に取り組

んできましたが一向に減っていません。本校でも不登校を削減するために学校長が東京都に申込みをして希望の教科教員を加配してもらっていました。つまり一人教員が増えることでその教科の空き時間を不登校対策に充てることができるため、保健体育の教員が3人態勢で余裕があることもあり不登校加配の教員に充てています。昨年は本来ならば講師採用だったのを教員採用にしたので、その教員が授業と分掌両方ができることで、他の教員に余裕ができ、その時間を不登校対策に充てることができました。しかし、東京都は加配制度を今年度までとし来年度からなくなります。東京都は“未然防止”に舵を切り、別室登校という形でアドバイスをするような教員を一人雇って配属してくれます。不登校になってから様々な学びにアクセスできるという事で、うちは不登校生の別室登校をやっていて教員が対応しています。東京都で非常勤の専門の方を配置している学校もあります。市内では中学校は1校と小学校2校あります。未然防止に関して東京都は、学校に評価と指導をしていくパターンと別室登校で担当を雇い配置していく形に舵を切りました。

委員： 先ほどの業務改善のところで、先生方の机上整理云々とありました。最近役所でもデジタル化が進み、書類等もタブレットに入れていこうとする方向のようですが、小中学校でも各生徒にタブレットを持たせデジタル化が進んでいると思われます。そこで実際の学校業務の中でもデジタル化が進んだことで、紙の使用が少なくなり整理しやすくなったとか、仕事がしやすくなったとか、現場でそのようなことはありますか。

校長： 基本的には、市内では「校務支援」というシステムがあり、メールのやり取りができます。またサーバーには分掌の仕事が担当ごとにパソコン内に保存されていて過去の書類などを含めていつでも見ることができるなど、数十年前からほとんどパソコン内で作業ができるようになっています。ただできるだけデジタル化に向けて進めつつありますが、紙使用も併用していることもあり、まだ完全にデジタル化になったというような環境に置き換わったとは言えないのが現状です。

委員： うちの息子なども宿題をタブレット使用になり、生徒に配る紙も減ってきていると感じていたので、実際の学校現場の状況を知りたいと思いました。

校長： 西東京市では全小中学校に“Eラーニング”という学習ソフトが入っています。今のGIGAからネクストGIGAに切り替える時に次の学習ソフトをどうするべきかという話は出ています。当然、生徒の学習教材、今までは買っていたものや、小学校では単元テストのような物をデジタルに置き換えることができるのかななどを今話し合っています。小学校では単元テストには市販のテストを使用していたり、中学校では定期テストなどを教員が作成し、高校入試なども作成されていることなどを鑑みると、全てをデジタルに置き換えることには議論の余地があるのかもしれないと考えています。

会長： 最終的な評価は、最終回だけだったでしょうか。

校長： 中間と最終の2回あります。

(3) 1学期の学校状況の説明

校長： 一学期を無事に終えることができました。「運動会」開催と「道徳授業地区公開講座」の開催などありました。また、1年生は4月に「小金井公園での校外学習」、2年生は「市内巡り」に行きました。3年生は9月1日から京都・奈良へ修学旅行に行きます。これは「夏の連合体列車」というもので5、6校だけが行けるもので、旅館が取りやすく、現地が比較的にある時期でもあるので申込み、行くことになりました。

運動会はコロナ禍もあり午前中のみで開催でしたが、今年は午後も開催いたしました。午後の開催は熱中症のことや不登校のともあるためどこまで

やるかを検討する必要がありました。毎年、不登校になるきっかけが集団生活になじめない、運動が嫌い、人間関係や摩擦、苦手意識などの理由で運動会後に不登校なる傾向があるようです。見方は様々でしたが、プログラムに1年から3年生まで“玉入れ競技”を入れました。意外な競技と感じられたかもしれませんが、走ることが苦手、運動することが苦手な生徒でもできるような競技ということで、観覧者にとっては面白くなくても、参加している生徒たちは結構楽しんでいて、自己肯定感が高まった生徒が何人かいたことが意外でした。運動会というと運動能力の高い子どもにとっての活躍の場というイメージで、苦手な子どもは陰に回ってしまいがちですが、このような競技で出番があることで良かったのではないかと感じました。保護者からの評価も分かれ、厳しい意見もいただきましたが、学校だよりに丁寧に説明はいたしました。運動会は熱中症や不登校対策など様々な状況を加味しながらすすめています。組体操やダンスのための練習には授業との兼ね合いもあり実施には難しい状況もあるため、現在ではほとんどの学校が実施していません。

子どもたちがクラスで団結でき、運動能力をそれなりに使いながらのプログラムで、不登校未然防止などの妥協点があったことなどを考慮した運動会であったとご理解して頂ければと思います。以上になります。

(4) 今後の活動についてのご相談

副校長：年の初めの頃に皆さんにはお伝えし掲示板にも掲示いたしましたが、残りの活動としては「職業座談会」があります。今年は9月20日ごろに行う予定です。今は副会長にもご協力をいただいています。職場体験の体験先を探すことに苦労しています。様々な行事には学年主任の考え方も多少影響されます。職場体験実施は学校としては決まっていますが、今年の学年主任は「学校現場に関してはあとで最終的な決定としたい」考えていて、それ以外の一般のところをはじめに探していきたいと考えているようです。しかも去年は1日体験でしたが、今年は2日間連続体験でお願いしています。そうすると1日だったら受け入れられても、連日となると難しい受け入れ先もあり、更にハードルが上がり探すのが難しい状況になっています。あと30人分の受け入れ先が未定で、一か所に3人としても最低10箇所見つけなければなりません。特に製造業の受け入れ先がないと聞いています。どこか受入可能なところをご存じのようでしたら、是非教えていただければ大変に助かります。

2点目は、今年も「ペンキ塗り」を予定しています。去年ペンキ塗りをした階段はとてもきれいなので、是非残りの階段も今年ペンキ塗りをしたいと思っています。また時期が近くなりましたら皆様にお知らせいたしますので宜しくお願いいたします。

副会長：日程としては前年度同様に3月を考えているのですか。

副校長：年間予定として、3月の卒業式の次の日が春分の日なので3月20日になると考えています。

あとで副会長からもお話があると思いますが、皆さんに「放課後カフェ」をどうするかというご相談があると思います。

皆様には現時点での「職場体験受け入れ先」一覧を今日明日にでもお送りしたいと思っています。私からは以上です。

委員：特に市内の製造業を見つけないのですか。歩いて行けるところが理想的だとは思いますが。

(5) 各委員より

副会長：お手元に7月17日に行われました“放課後カフェ”「二中くつろぎ喫茶プレオープン」の資料がありますので見ていただきたいと思います。この日、参加された教員の参加人数を教えてくださいたいと思います。

- スタッフの方からは、「生徒たちがとても礼儀正しく楽しそうにしていた」という感想をいただきました。今後、子どもたちにノートを回していますので、それに書かれている子どもたちの要望も聞きながら先生とご相談させていただき考えていきたいと思います。PTAからもたくさんの参加をしていただきましてありがとうございます。
- 委員： PTA参加者も楽しく参加させていただきました。本来であれば、PTA中心に行くべきだったのかもしれませんが、全くどんなものなのかし知らなかったため、副会長を中心にやっていただきました。事前に開催のお知らせをいただいていたので盛況になるとは思っていましたが、校長先生も驚くほどの盛況ぶりに驚きました。PTAは自習室も引き続きやっていますが、人数的に“放課後カフェ”に桁違いの人数が参加していて驚きました。このまま、この“放課後カフェ”がPTAとしても、子どもたちがこんなに喜んでいるので可能な限り続けたいと思います。ありがとうございました。
- 副会長： 生徒の中の何人かに勉強をしている子どもたちがいました。民生委員の方が声をかけ、「一緒に進路について話した」とか、「分からない問題のアドバイス」をしたりしたとかあったようで、少し交流ができたのではないかと思います。地域の人と生徒たちということで、もう少し参加された皆さんのご紹介をしたかったと思いました。それにしても多くの参加にも関わらず、混乱することなくうまくできたと思います。2学期の開催では、部活の子どもたちの参加を考えると5時で閉めるのは早すぎるのではないかという事などを含めて、もう少し考えていきたいと思います。開催日も固定した曜日ではなく子どもたちの要望を取り入れて考えて行きたいと思います。できるだけ子どもたちが要望したことなどを実現させてあげたいと思っています。報告としては以上です。
- 会長： 良いか悪いかは分かりませんが、他の学校ではお菓子を提供するところもあるよと聞きました。
今回はサイダーがとても人気だったようですね。
- 副会長： PTAの方から飲み物のご助言をいただきサイダーを加えました。早い者勝ち状態でしたが、いろいろと参考になりました。非日常的な感じで、その様子を地域の人たちが見ているという状況がとてもほほえましく感じました。
- 委員(1) 私も“放課後カフェ”にとっても興味があり、次回は是非参加させていただきたいと思います。
- 委員(2) 先日、道徳授業地区公開講座に参観をさせていただいたのですが、最近の授業というのが今まで知っていた授業とあまりにも雰囲気的に違うので驚きました。子どもたちが相談して考えてという、考えながらの授業に違いを感じました。
- 校長： 協働的な学習というのが今はわりと主流です。道徳に関する意見交換するという事は価値観を交換することになるため正解はないので、いろんな意見を出し合い「そういう考え方もある」とか、「自分とは違う見方もある」などの学ぶことはとても大切なことだと考えています。
- 委員(3) 今年の10月19日土曜日に「ハロウィンまつり」の開催を計画しています。多分、2学期が始まる時期に中学生ボランティアの募集をすると思います。
地域情報として、「谷戸第二小学校の正門」が、日程は分かりませんが工事のため、駐輪場の方から入ることになっています。
もう一つは、中学生はあまり利用しないかもしれませんが、「せせらぎ公園」のポンプ故障で長い間水が流れていみせんでしたが、改善されました。
- 委員(4) 同窓会ですが、5月11日田無二中の図書室で77名の卒業生が集まり「同窓会総会」が開催されました。学運協関連では、「夏休みの学習教室」と「ペンキ塗り」の予算を合わせて3万円を申請いたしました。詳細は「夏休みの学習教室」

の講師交通費として一人500円、また「ペンキ塗り」の時のお茶代とします。
以上です。

委員(5) 公民館から2点紹介させていただきます。お配りいたしました緑色のチラシ「高校生と一緒に涼しい公民館で充実した夏休みを」に関してですが、谷戸公民館の学習室を8月1日から7日までの一週間を無料開放します。本来は使用するには団体登録が必要ですが、この期間は登録なしで学習室を使用することができます。『小・中・高校生を対象に20人のボランティアと一緒に勉強しましょう』という企画です。昨年も人気の企画で学運協の皆様にも是非見に来ていただきたいと思います。昨年からはWi-Fiも設置され、インターネットも使用できる環境ですのでお知り合いの方々に是非ご紹介していただきたいと思います。

2点目は、谷戸図書館が今年の10月に40周年記念を迎えるにあたり、実行委員会が様々なイベントを企画しています。11月4日月曜日の文化の日の振替日に谷戸公民館の講座室でイベントを開催することになりました。その際に西東京市PR親善大使の落語家の林家久三さんをお呼びして40周年の“40”にちなんだ小噺をしていただき、小中学生が生の落語を無料で聞けるということで、小中学生と落語家さんとで「即席落語体験会」を企画しています。午後は公民館をご利用いただいている様々な団体の方による演奏会、講演会、座談会などを企画しています。11月4日は皆様大変にお忙しいとは思いますが、地域の皆様と一緒に40周年記念を祝っていただければと思います。よろしくお願いいたします。

委員(6) PTAからですが、「放課後自習室」に関して報告いたします。5月の中間考査前の3日間に36名の利用。6月期末考査前の5日間に78名の利用がありました。期末考査の一週間前の初日は部活もあることから2名だけの利用でボランティア3名が対応という状況でした。また、隣の音楽室からは部活の吹奏楽の練習音が聴こえ、集中できないとの声もあり、外部ボランティアからは『テスト一週間前の「放課後自習室開催」の必要性はないのではないかな』との声がありました。PTA本部では『利用人数はともかく、必要としている生徒がいる限り、開催する必要がある』という見解でした。この件に関しては、9月の中間考査の様子を見て考えてみようと思っています。PTAの引継ぎの中で、12月に次年度の「放課後自習室」開催に向けて「生徒アンケート」取ったとありましたが、アンケートを取る必要はあるのでしょうか。

副校長：生徒アンケートを取りそれに準じて云々という事実はなかったと思いますが、参考にした程度だったと思います。

副会長：必要とする生徒がいる限り、続けてほしいと思います。

会長：それは正式なアンケートではなかったのではないですか。皆様のご意見からもアンケートを取る必要はないと考えます。

副会長：『利用人数に限らず必要としている生徒がいる限り、必要です』と言い切った方がよいと思います。地域も一緒に行う事なので是非開催してほしいと思います。追加報告ですが、7月24, 25, 26日に「夏休みの学習教室」が開催されます。その講師募集のために7月3日に保谷高校の副校長にお会いし説明とお願いをしました。かなりの応募があったようです。QRコードで申し込んでもいない卒業生も来てくれる予定もありますが、卒業生にとっても良いと思うので皆様には是非お声がけをよろしくお願いいたします。谷戸公民館の「高校生と一緒に涼しい公民館で充実した夏休み」に学芸大附属高校の生徒さんがいらっしやると伺いましたので、来年度に向けて二中にも来てくれるようにお願いしに伺いたいと思っています。

次第3 事務連絡

副校長：今日はどうもありがとうございました。次回は9月25日水曜日の午後2時からの開催になりますのでよろしくお願いいたします。それでは資料4にご記入の上、お帰りの際にご提出していただければと思います。

会長：他に何も無いようなので、これで第二回学校運営協議会を終わります。